

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2013年12月号 通巻60号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2013

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

消えた死体のミステリー

骨も貴重な資料になる



タヌキの頭骨。(右)は前方上方から見たもの。タヌキの頭骨の形状はイヌそのもの。イヌよりもイヌらしいと言ってもいいほどである。鼻が長いこと、犬歯が大きいことに注目。採取は2008年。現時点で私が持っているタヌキの頭骨はこれひとつだけ。

タヌキ調査では骨の収集も重要な課題です。特に頭骨の形状はその動物の生態を反映しているので教材として利用できます。問題は骨の入手が非常に難しいことです。

埋めたはずの死体が

東京タヌキ探検隊！には死体の目撃情報も届くのですが、行政が先に回収してしまうので入手はまず不可能です。私有地内に死体があった場合などでは提供していただける場合がありますが、さすがに死体をそのまま丸ごと運び出すわけにもいかないため、いったん地面に埋めていただくようお願いしています。そして自然に分解させておいて、1ヶ月～数ヶ月後に掘り起こすのです。そこまで順調に進むことはほとんどなく、これまでうまく骨を回収できたのは1回だけしかありません。

実は骨を回収できる機会は何度かありました。死体を埋めていただき、あとは掘り返すだけということろまで行ったのでした。ところが…

掘り出しに行くと、埋めたはずの死体がきれいに消えているのです。タヌキ大の動物の骨は数ヶ月で分解されるようなものではありません。状況から言って人間が掘り返したとも思えません。カラスが持ち去れる重さでもありません。そもそもカラスは土の中の死体を発見することすらできないでしょう。そうすると、死体を掘り返すことができそうなのは哺乳類、具体的にはネコまたはタヌキが容疑者となりそうです。頭数で言えばネコの方が多いためネコが有力容疑者となるのですが、鼻がいいのはタヌキの方です。どちらが犯人なのか、あるいは別の犯人がいるのか、このミステリーは未だ解決していません。

頭骨から読み取る生態

骨の中でも頭骨はそれぞれの動物の特徴がよく出ています。例えばネコは奥歯(犬歯)の数が少ないのですが、これは肉食に特化したためです。対してイヌやタヌキでは奥歯の

数はネコよりも多く、植物食にも対応していることがわかります。つまりネコよりも雑食ということです。鼻の長さを比べるとイヌ、タヌキは長く、ネコは短いことも一目瞭然です。鼻が長いということはおいをかぐ器官が大きいということであり、嗅覚が優れていることを意味します。

このように骨を比較することで動物の特徴が理解できるのです。そのためタヌキに限らず他の動物の骨(特に頭骨)を集めることはとても重要なのですが…タヌキに限らず入手困難なのです。私が持っているのは他にはイヌ頭骨1つだけです。もし動物の死体を発見されたならばぜひご一報お願いします。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>